

52 アンケート調査による震災時対応の把握 (埼玉県放射線技師会第二地区)

原田病院
瀧澤 誠

【背景・目的】

東日本大震災が発生し1年余り、埼玉県内においても施設被害や業務への支障をきたしたことは記憶に新しい。震災時のマニュアルの有無や、非常時の患者接遇、またこれまで経験のなかった計画停電への対応など様々なことに追われたと考えられる。第二地区では現状の把握と問題点、今後の課題を検討するためアンケート調査を行った。

【アンケート内容と結果】

アンケートは、11項目である。

回答は、10施設よりいただいた。

Q1 震災時に行っていた業務は何か

- ・一般撮影 3施設
- ・CT 2施設
- ・事務作業 2施設
- ・MRI 1施設
- ・CF 1施設
- ・患者案内 1施設

Q2 震災時に行った患者対応は何か

- ・患者避難経路の確保
- ・扉、窓の開放
- ・患者を寝台から降ろす
- ・患者の隣に付く
- ・落下、転倒の危険物からの退避

Q3 放射線科検査で自家発電を使用できるか

- ・YES 8施設
- ・NO 2施設

Q4 今回の震災で自家発電を使用して検査を行ったか

- ・YES 3施設
- ・NO 7施設

Q5 計画停電中に予約検査を行ったか

- ・YES 8施設
- ・NO 2施設

Q6 震災時マニュアルは用意されているか

- ・YES 8施設
- ・NO 2施設

Q7 防災、避難訓練は行っているか

- ・YES 10施設

Q8 放射線科内に災害発生時の情報取得手段はあるか（複数回答可）

- ・TV 8施設
- ・ラジオ 4施設
- ・インターネット 10施設

Q9 検査機器の被害状況

- ・被害あり 2施設→MRIでクエンチ発生
- ・被害なし 8施設

Q10 メーカーごとに非常時の連絡先を把握できているか

- ・全メーカー把握 4施設
- ・一部メーカー把握 4施設
- ・把握できていない 2施設

Q11 計画停電時の勤務時間は変わったか

- ・YES 7施設
- ・NO 3施設

【アンケートから見えてきたもの】

機器の点検や、計画停電に対応するための検査予約、勤務時間の変更など、非常に苦労したことが伺えた。

【技師の行動】

災害時の初期行動は、自分自身の安全確保、検査室内の患者の安全確保、火の元の確認、避難経路の確保、患者を安全な場所へ誘導などがあげられる。その後、検査機器の被害状況の確認などが考えられる。

【考察】

今回のアンケートから、災害時マニュアルの作成が重要であると考えられる。誰が見ても分かりやすく、すぐ行動できる書式が望まれる。災害時は、患者搬送、食事の配膳など、職種にこだわらずみんなが協力する。また地域の技師と、情報交換や協力ができることが良いのではないかと。

【結語】

今後起こる可能性の高い首都圏直下型地震の参考になれば幸いである。

アンケートにご協力いただいた施設の皆様に深く感謝いたします。